

つなままち

No.195
TSUNAN-TOWN
2014年10月20日発行

9月定例会 9/8~9/12

決算認定・補正予算	②
決算認定討論	③~⑤
請願・陳情	⑤
一般質問	⑥~⑩
委員会レポート	⑪~⑬
議員定数討論	⑭~⑰
町民登場、編集後記	⑱

五穀豊穰
招福祈願



[写真]
陣場下地区 毘沙門天 80周年 護摩大祭

平成25年度会計決算

平成26年度補正予算

平成26年第3回町議会定例会が9月8日から12日までの5日間開催されました。初日は5人が一般質問に立ち、その後各常任委員会で請願・陳情審査が行われました。2日目は一般質問4人、条例制定、平成26年度補正予算、平成25年度決算審議が行われました。3日目・4日目は合同常任委員会が行われました。最終日(5日目)は平成25年度決算認定、議員定数削減の議員発議、請願3件の審議が行われました。決算認定では7人、議員定数削減案については11人が討論に立ち、活発な議論が交わされました。

会計名	歳入	歳出	差引
一般会計	71億5,509万円	68億3,381万円	3億2,128万円
国民健康保険会計	13億0,485万円	11億9,157万円	1億1,328万円
後期高齢者医療会計	1億1,532万円	1億1,264万円	268万円
介護保険会計	16億1,312万円	15億4,153万円	7,159万円
簡易水道会計	1億3,607万円	1億1,106万円	2,501万円
下水道事業会計	3億7,148万円	3億5,278万円	1,870万円
農業集落排水事業会計	3億3,995万円	3億3,309万円	686万円
病院事業会計	18億4,557万円	18億4,500万円	57万円

主な補正予算内容

補正額 9,876万円
総額 68億1,599万円

主な歳入増

臨時福祉給付事業補助金 1,156万円
繰越金・町債 6,400万円

主な歳出増

総務費 克雪管理センター工事費 221万円
民生費 臨時福祉給付金 156万円
労働費 地域づくり事業 884万円
農林水産費 小水力発電設備工事費 2,000万円
商工費 竜ヶ窪温泉修繕費 187万円
社会教育費 小口川用又キ場庄雪車購入費 456万円

特別会計等補正予算

介護保険特別会計 補正額増 2,694万円
総額 15億6,155万円

主内容 精算償還金増

農業集落排水事業特別会計 補正額増 2億9,200万円
総額 6億6,500万円

主内容 下水道工事増

病院事業会計 補正額増 559万円
総額 559万円

主内容 手術室工事他

平成25年度歳入歳出決算認定

- 一般会計 賛成13対反対2
- 国民健康保険特別会計 賛成13対反対2
- 後期高齢者医療特別会計 全員賛成
- 介護保険特別会計 賛成13対反対2
- 簡易水道特別会計 全員賛成
- 下水道事業特別会計 全員賛成
- 農業集落排水事業特別会計 全員賛成
- 病院事業会計 全員賛成

条例の改正・制定

- 税条例の一部改正(1) 賛成多数
- 法人町民税等や軽自動車税など改正。
- 貸農園宿泊施設の設置(1) 全員賛成
- 山間集落(結東内)の活性化及び都市住民との交流を図るための施設設置に關して必要な事項を定める。

一般会計

反対

藤ノ木 浩子

一般会計決算の認定に対する反対討論をする。理由の一つは今年度予算で一般会計から国保会計へは、国保基金も取り崩さず、法定外繰り入れも減らし住民負担増を実行した。今年度の法定外繰り入れは7,445万8千円で、平成24年度より2,400万円減額。しかし、一般会計決算では歳入歳出差引残額約3億円となった。財政調整基金は毎年増え続けている。私は住民生活をあらゆる手段で守るべきと考える。二つ目に看護師確保対策にもっと予算をつけ行動をおこすべきと考える。日本医労連による看護職員の労働実態調査によれば、73・6%が慢性疲労を訴えている。半数以上が「十分な看護ができていない」と答え、その理由の8割が「人員が少なく業務が過密」をあげている。「仕事をやめたい」と答えた人は、75・2%にもなる。看護職員が働き続けるための労働条件の整備として、看護師は300万人が必要と提言している。当町の病院はもちろんのこと、福祉施設でも町全体の福祉向上において看護師確保対策は重要課題である。

町民が安心して普通の暮らしを続けていくために多くの課題が山積している。国の悪政の防波堤となって町民の暮らしを守って頂きたい。

賛成

石田 タマエ

平成25年度一般会計決算71億5,509万円に賛成する。

予算総額で、対前年比3・14%の減額であるが、災害復旧費の減額等によるものである。また、地方交付税や国庫支出金の増額、町債の減額は各種財源確保への努力によるものと高く評価する。具体的には、「地域おこし協力隊」の配置や秋山郷の衛星携帯電話の配備は安心できる生活環境へと前進した。子育て支援では、子育て世代への負担軽減や、「保育園等整備検討委員会」の答申により、今後の保育園等整備へと動き出すことができた。また、一体化した子育て支援体制構築のために庁内の機構改革の準備を進め平成26年度からの始動を確実なものとした。農業振興では、認証米補助制度により、



求められる高品質米 (津南で作られた米俵)

国民健康保険会計

反対

藤ノ木 浩子

国民健康保険会計決算に反対する。国保会計に対する町長姿勢は、「県で一本の制度となったら津南町の国保料は上がる。激変緩和のために今から上げていく」というものだ。国保制度の広域化について、泉田知事は、「今のしくみは問題だ」「国の支援が必要だ」という姿勢である。私は国の制度を先取りして、町民に負担を強める姿勢は賛成できない。

国保加入者の実態は、課税所得167万円の4人家族の国保料は、約28万32万円、所得の17・19%にも及んでいる。国保加入者のうち所得ゼロが38・7%、100万円以下が30・5%で、合わせて国保加入者の約7割は100万円以下の低所得者である。国民健康保険は社会保障制度であり、民間の生命保険や損

平成25年度 決算認定 討論

害保険とは違う。
今、どこでも高い国保料に悲鳴があがっている。高い国保料の原因は、国が国保会計に対する国庫負担を減らすために、制度改悪を一貫してすすめてきたからであり、国庫負担の増額なしに根本的な解決はないと考える。よって国に声を上げていくことを強めることを願う反対討論とする。

賛成

村山 道明

賛成の立場で申しあげる。

どこの家庭、個人でも最高の医療を受けたい、どんな病気でも安心して治療受けられる国民健康保険制度。被保険者数は年々減少し前年対比3・1%減の3,058人となった。町も更なる高齢化社会を迎える中で、医療費が前年対比7・7%も増えた。しかしながら、1人当りの保険料を県下30市町村中28番目であり、増額したとは言え、前年度同様に最低水準に近い負担で終わったことは、十分に評価する。医療費、保険給付状況詳細はここでは述べないが、財政内訳から、給付費等の直近の伸びなどを考慮した収支執行状況が伺える。それは、一般会計からの繰入や繰越金を相当補填するなど、保険料の増額を抑えようとする姿勢が見て取れる。

私は、この決算状況は町民に十分理解して頂けると思っている。

また、人間ドック、特定健康審査や水中運動などの併用事業は、住民の健康促進によって医療・介護費の低減、削減につながると確信している。

一方では、要介護認定者が増加傾向にあることは、歳入と歳出のバランスが大きく崩れ介護保険制度維持が困難になることが危惧される。また、軽度の要支援者への対応が各自自治体へ移管されることで、各自自治体の手腕が問われる。今後は、自助・共助・公助の地域づくりを住民とともに作り上げることで、介護予防の成果を上げることを期待し、介護保険特別会計決算に賛成の討論とする。

病院事業会計

賛成

風巻 光明

平成25年度の病院事業会計は、病院事業収益のうち入院収益が大幅に減少する厳しい決算となったが、それに対応し維持していくために、円安により原材料が高騰するなか、経費全般の統制管理を積極的に行い、経費の削減が行われていた。

また平成26年度の消費税上げを予測し、材料費の購入などの確な対策も執行されていた。

一方看護師や事務職員の退職に対応するため、全般の人事管理について、臨機応変に適材適所に配置しており、病院の使命である患者サービスを維持してきたことは、大きく評価するものである。今後も病院会計は厳しい状況が続くと予測されるが、今以上に経営の改善につとめ、自治体病院の使命でもある住民の健康と安心を担う、サービス向上に、なお一層取り組みを期待し、本病院会計決算に賛成する。

今後も国保運営のために最大限の努力を期待し、賛成とする。

介護保険会計

反対

栗原 洋子

介護保険会計決算に対する反対討論をする。公的介護保険制度として、改悪が繰り返されているなかで、誰もが利用する制度として必要なサービスが、いつでも安心して利用できる制度となるまで賛成はできない。

高齢者人口に対する要支援、要介護認定者数は平成25年825人、5人に1人の割合で、



恵福園ディサービス

うち要介護3以上の方は346人である。高齢化の中で介護の問題は高齢者はもちろんだが、現役世代にも不安要因となっている。一つは特養入所待機者が増加の一途であり、その大元は低年金、低所得の高齢者が多いことである。国に特養増設のための施策を求めていくべきだ。二つ目にサービス利用に対する負担の重さである。補給付制度も改悪の方向だ。利用料負担軽減の制度拡充が必要である。三つ目に介護福祉現場の人材育成、人材確保の強化も不可欠な課題である。賃金アップや労働条件の改善を図らなければ人材は集まらない。介護切り捨ての制度改悪をやめさせ、必要なサービスを保障する改革が必要である。

賛成

石田 タマエ

平成25年度介護保険特別会計決算16億1,312万7千円に対し賛成する。

予算総額においては、対前年比3・5%増である。このことは、要介護認定者の介護給付費が、対前年比4%の増額であることに起因する。これらを賄う財源として、町民から徴収する介護保険料は概ね前年同額である。

新潟県内の介護保険料月額平均は5,634円であるが、津南町は月額5,000円であり、県内平均を大きく下回っている。また一方で、国並びに県の負担金や補助金の増額、更には一般会計繰入金が増額で維持継続してきた。

このことは、住民負担を可能な限り軽減し、多様な介護サービスのニーズに応えようとする行政姿勢が伺え、高く評価する。

今後は介護保険料を負担する人数が減少し、

請願・陳情・意見書

請願

1 政府による緊急過剰米処理を求める請願

賛成討論 藤ノ木浩子

今回提出された、政府による緊急の過剰米処理を求める請願について賛成の討論をする。安倍首相は、「農業・農村の所得倍増」をにかけているが、農家は「所得倍増どころか赤字倍増ではないか」と怒っている。

また、農家からは「生産コストを大幅に下回っている、生産者米価がいつそう暴落すれば、米を作る農家がなくなってしまう」「こんなに安くては先の見通しがつかない、規模拡大には大型機械が必要だ。いま借金をして設備投資はできない」「農機具も買えない、地域の景気も益々悪くなる」「安倍首相は言うことと、やるが違う」と米価暴落の悪影響を訴えている。

政府が抱える備蓄米の中の古米を飼料用に売却し、暴落要因となっている民間過剰米の買い入れをすることは当然である。

農業・農村を守るためには、政府の責任で過剰米処理を行い、生産者米価の安定を図ることを求め、賛成討論とする。

陳情

1 軽度外傷性脳損傷の周知及び労災認定基準の改正などを求める陳情

全員賛成で採択

2 「学費と教育条件の公私間格差是正にむけ、私立高等学校への私学助成の増額、拡充を求める意見書」の提出に関する陳情

賛成14反対1で採択

請願1. 及び陳情1. 2. について意見書を国・県へ提出致しました。

全員賛成で採択



雪おろし時の安全対策に補助制度を

町長：住宅改修補助金で対応は可能

風巻 光明 議員

町長 すぐに処理できる場
「安全対策費」の予算化が必要だが考えは。事前に「安全対策費」の予算化が必要だが考えは。

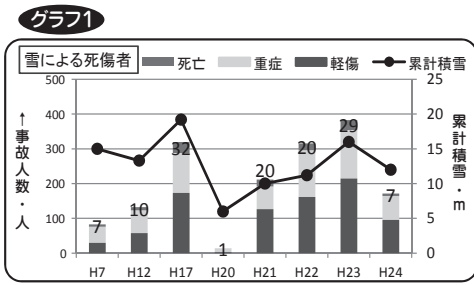
町内危険個所の改修に「安全対策費」の予算化を
町内の危険個所は住民の要望等で対処する場合は一般的だが、安全確保はスピード感をもった対処が必要だ。事前「安全対策費」の予算化が必要だが考えは。

町長 町として事故防止に向けて広報で注意喚起している。転落防止対策は良い点もあるが、課題も残している。補助制度は「住宅改修補助金」で対応は可能。また「克雪住まいづくり支援事業」を利用して「屋根根に上がらなくても良い住宅」の普及に努めていきたい。

高齢者の雪による死傷者が増加し安全対策が急務

町長 津南町は雪による死傷者は毎年のように発生し、死亡者も出ている。高齢者の雪下ろしによる事故が多い。命綱をつなぐ固定止め金具が実用化された。町として対策が必要だが、この普及促進を行うのが指導すると共に、工事の補助制度を提案したいが見解を問う。

1. 新潟県・津南町雪による死傷者(県防災ポータル調べ)



新潟県雪による死傷者推移(高齢者の事故が年々増加)

町長 玄関までの階段については、座ったままでできる階段昇降機などを考えたい。

町営住宅は高齢者を意識した建築・設計を
町営住宅の入居者も今後ますます高齢化が進む。足の不自由な人や車イスの必要人は玄関までの階段で苦労している。今後地震や火災などでも迅速に非難できるような新棟では車イスで昇り降りできるような工夫が欲しいが見解は。

合と、時間を要する場合があります。軽微なものは即対応する。緊急な場合は専決処分や補正で取り組んでいる。不足があれば来年度予算で検討したい。



十二峠新トンネル開削の要望を

町長：直接国土交通大臣に面会し要望した

中山 弘 議員

町長 大倉トンネルができて、新灰雨トンネルが開通すれば当然交通量は多くなる。さらに十二峠の新トンネルが出来るのであれ

町長 大倉トンネルができて、新灰雨トンネルが開通すれば当然交通量は多くなる。さらに十二峠の新トンネルが出来るのであれ

町長 大倉トンネルが開通すれば当然交通量は多くなる。さらに十二峠の新トンネルが出来るのであれ

町長 大倉トンネルが開通すれば当然交通量は多くなる。さらに十二峠の新トンネルが出来るのであれ

新トンネルのための町独自の運動は

町長 冬の十二峠越えの怖さは誰もが経験している。新トンネルが出来ることにより災害時の避難だけでなく、関東圏との交流で経済効果は計り知れない。正に夢のトンネルである。一日も早い新トンネル開削の事業化を目指し、町独自の運動は考えてないか。

町長 関係市町村と共に直接国土交通大臣に面会し要望した。また、議会からは長野県の市町村と連携し、県と選出の国会議員に要望していた。今後、機会があるごとに要望活動していく。

町長 関係市町村と共に直接国土交通大臣に面会し要望した。また、議会からは長野県の市町村と連携し、県と選出の国会議員に要望していた。今後、機会があるごとに要望活動していく。



早期復旧を(国道353号崩落現場)

町政を問う!!

● 一般質問 (9 議員)

1 **大平 謙一** 議員 (6ページ)
1、米価下落への対応と畑作の支援策は

2 **風巻 光明** 議員 (7ページ)
1、雪おろし時の安全対策に補助制度を
2、高齢者を意識した町営住宅の建築・設計を

3 **中山 弘** 議員 (7ページ)
1、十二峠新トンネル開削の要望を

4 **藤ノ木 浩子** 議員 (8ページ)
1、医療・介護の改革を

5 **桑原 洋子** 議員 (8ページ)
1、地域に出向き骨密度測定を
2、米価下落を受けて農政の転換を

6 **石田 タマエ** 議員 (9ページ)
1、揺るぎない津南町農業の方向性は
2、介護予防の取り組みは

7 **村山 道明** 議員 (9ページ)
1、遺跡の保管場所に空校舎活用は適切か
2、自転車用ヘルメット着用を

8 **滝澤 茂光** 議員 (10ページ)
2、鳥獣対策は

9 **桑原 悠** 議員 (10ページ)
1、「津南ブランド」見せ方、売り方は

米価下落に町はどう対応するのか

町長：味品質向上により販売力をつける

大平 謙一 議員



米農家救済対策は どうするのか

町長 農業を取り巻く情勢は一段と厳しいものとなった。二年連続の米価下落は農家を落胆させる状況で、農業離れを加速させるものと思われる。町としてどう対応するか聞く。

町長 2年連続のJA仮渡金の引き下げは農業経済に多大な打撃を与えるものと考えられている。米の消費量減少や過剰作付により慢性的な米余りによるものと思うが、他産地との価格差の縮小など魚沼産の販売力低下によるものと考えられている。こうした状況を受け、乗り越えるためには、他の追随を許さない日本一の米の品質と生産コストの引き下げが不可欠と考えており、津南町認証米の品質向上策、またコスト引き下げのための組織化が必要と考える取り組みを進めている。

町長 日本一の米作りの取り組みがしっかりしたものであれば補助も考えて行きたい。

町長 農家が畑作に力を入れた場合、畑の面積は不足しないか。



今年のコメの出来は良いかな

他に町長の町づくりの成果について質問しました。

地域振興課長 不足するほどになることを期待したい。
町長 大規模化するのには圃場の再整備が必要だ。どう進めるのか。
町長 圃場整備は手上げ方式であり、強制できるものではない。また大規模な所はない。



揺るぎない津南町農業の方向性は

町長：ハウス栽培は検討の余地がある

石田タマエ 議員

問 米の需要と供給のバランスが崩れ、在庫過剰により米の仮渡金が2年続けて暴落している。認定農業者等一定の要件を満たせば価格補填があるが、一時的な措置ではない。国情に左右されない強い農業を目指すために葉菜類のハウス栽培ができないか問う。

町長 米作りは津南町農業の根幹であり、他の追随を許さない良質米の栽培を目指した認証米制度は、ダンピング前に売り切ることを目指して進めてきた施策である。結果的には農家所得を増やし、的を得た施策であった。今後、認証米の面積拡大を目指す。また、集約農業によるコスト削減を追求していかねばならない。葉菜類のハウス栽培による通年栽培は検討の余地がある。消雪用の自然湧水活用には、水量の問題や水利権の問題等を解決していかなければならない。

問 農地集積が不可能な農地は今後荒廃地となる



日本の米は俺にまかせろ

町長 全ての農地を保全することは難しい。荒廃地化もやむを得ない。

問 介護予防は現在の生活の継続が可能になるのか。

町長 介護予防は高齢者が現在の生活を継続できることに繋がる重要な事業であるが、その成果が見えない。今後は、どのような取り組みをするのか問う。また、「いきいきサロン」で支援組織ができない限界集落等の対策はどうするか。

町長 想いは同じだが、人材や財源等あらゆる面からの検討が必要であり、一朝一夕にはいかない。「いきいきサロン」については委託先と検討する。



医療・介護の改革を問う

町長：医療スタッフ不足が極めて深刻だ

藤ノ木浩子 議員

問 医療・介護の改革の方向として国は「病院完結型から地域完結型へ」とし、入院や介護施設入所から地域、在宅へ誘導している。その受け皿として「地域包括ケアシステム」を考えているが、それも進まぬ自治体は、医療・介護難民が生まれかねないがどうか。

町長 患者それぞれの状態に相応しい良質かつ適切な医療の提供体制と地域包括ケアシステムを構築するために、医療法、介護保険法等一体となつて実施したものと認識している。しかし、地方では高齢化と同時に医療提供スタッフが不足する深刻な問題に直面することが予想され、医療・介護難民が生まれかねないと私自身も危惧している。

問 本法律は都道府県に地域医療構想策定と病床機能報告制度を義務付けた。町立病院への影響はどうか。

町長 社会環境が大きく変化するなかで、地域医療が成り立つかどうか、非常に重要な局面に立たされている。都

医療・介護総合推進法への危惧

道府県の裁量が不明であることや病床閉鎖や機能転換を求める医療機関をどう選別するのかなど課題だと考える。

問 高齢者の実態と予測は。

町長 要介護認定者数は、平成26年854人で重度者の割合が高い。高齢化率は40%超えると予想され、高齢者のみ世帯1,081世帯、単身高齢者643人であり、この傾向は続くと考えられる。

問 低所得者が入所できる施設が必要ではないか。

町長 軽度者、低所得者の住まいは重要課題だ。町民の意向を参考に既存の住宅や国の生活支援モデル事業も導入の検討が必要だ。

他に子ども子育て新制度について質問しました。



望まれる在宅支援

空校舎に遺跡保管は重荷だ

町長：新たな展示方法を考査中

村山 道明 議員

問 津南原小学校・津南原保育園の廃校舎に、遺跡や民具を一時的に大量保管されている。現場から見えた課題として、恒久的に使用すると言わざるを得ない。貴重な文化財であるなら、出土品の整理選択をし「なじももん館」を活用するのが当然だがどうか。

町長 津南原小、津南原保育園で整理作業を続け、船山の民族資料館の老朽化が見られるので新たな保管施設や展示施設のあり方も合わせて検討する。

問 雑水山第二発電所建設工事で5社指名入札。4社辞退し、1社が落札した。金額に相当差があったが要因は何か問う。

町長 自然再生エネルギー制度創設以降、国産小型水車・発電機の発注が多く価格はね上がり、製造期間も2倍から3倍に伸びた。輸入品も含めて入札が行われ、結果、辞退したのが4社であった。

問 いきいきサロン事業は、集落高齢者にとって開催日が

町民財産に疑問の声

楽しみである。きめ細かな支援や事業申請書類の簡素化をすべきだがどうか。

町長 高齢者孤立の解消、介護予防や地域の見守り等の役割を果たしている。これらを踏まえ、要綱を定めた。

問 小中学生の自転車使用時にヘルメット着用している。子どものヘルメット着用が努力義務化されたが、支援を含めて所見を問う。

町長 ヘルメット着用については、自転車の整備同様、各家庭の責任においてすべきである。現時点では、町からの支援は考えていない。

自転車用ヘルメット着用を

問 骨密度測定は40・45・50・55才の女性を対象に行っている。地域に出向くことも不可能ではない。

町長 骨密度測定は40・45・50・55才の女性を対象に行っている。地域に出向くことも不可能ではない。

地域に出向き骨密度測定を

町長：条件整えば不可能ではない

桑原 洋子 議員

問 厚生労働省の調査では介護が必要になった原因のうち、「骨折・転倒」は第5位である。寝たきりゼロ運動とタイアップし、地域に出向き骨密度測定ができればさらに中身の充実になるのではないかと問う。

町長 骨密度測定は40・45・50・55才の女性を対象に行っている。地域に出向くことも不可能ではない。

問 米価暴落の原因は米余りと言われているが、毎年77万ト輸入されている。TPP交渉をめぐると日米協議で「特別枠」など輸入増加が考えられるなか、政府が米価の下支えをしないことから来るものではないか。町長は町民所得の向上を謳っているが、米価暴落による生産者への影響はどうか。TPPに反対し、米価の下支えをする農政への転換を、政府に求めていたかどうか。

町長 JA 仮渡金の大幅な

寝たきり予防の充実を

引き下げは消費量の減少が大きな原因だ。ミニマムアクセス米は主に加工や飼料などに使われ、米価下落への影響は考えにくい。今回の米価下落の影響は極めて大きいことから、JAと共同の無利子融資と高品質米の生産、コスト低減策で対応したい。TPPに關しては直接国内農業に影響はないものと考えられる。もし重要5項目が関税撤廃なら即時撤退の考えは変わっていない。

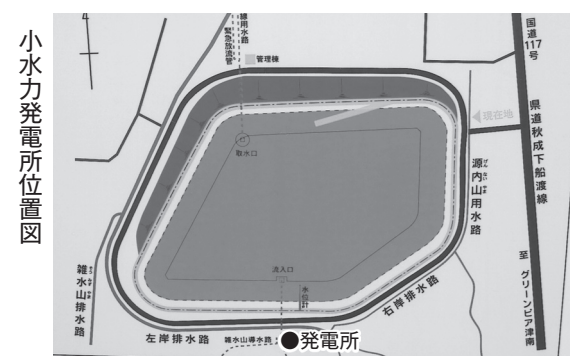
苗場山麓償還金の更なる軽減策を国に

問 米価暴落でさらに経営が困難になる。償還金の軽減策を強く国に求めていただきたいがどうか。

町長 常日頃、国に要望している。今後よりいっそう国に働きかけていきたい。



骨密度測定で寝たきりゼロ



小水力発電所位置図



安全性が保たれるまで熊の淘汰を

町長：目撃情報を猟友会に伝え駆除していただく

滝澤 茂光 議員

ついに人身被害者が 出たが対策は

問 駒返り地内において人身事故が起きてしまったが同地内は以前から目撃情報があったところであり非常に残念である。

産業建設常任委員会では作況調査で町内を回ったが赤沢台地ではあ然とする程クマの足あとだらけの畑がある。

動物愛護の方々には共存共栄をとよく言われるが、今まさに津南町は共存状況となつてしまっていることをわれわれは認識すべきである。

農家の方々には危険覚悟で仕事をしている。私はこの様な状況はあってならないと考えている。猟友会の方々も高齢化が進み対応するためのマンパワーが足りない状況であり後継者の育成にもつとつと力を入れるべきと考え

町長 改正鳥獣保護法により個体



巨大な熊の足跡（手前は 25.5cmの靴）

管理をする形で生態区域を大きくしない、また生活に害を及ぼす場合については補殺を積極的に行うとしている。猟友会の後継者育成についても取り組んでいるところであるが中々進まないのが実情である。農家の側でも自分の作物は自ら守るとの気がいから、ワナの資格をとった方もいる。更にJ・A津南町と行政も共に協議し対応してまいりたい。

他に米価暴落の対応策について質問しました。



「津南ブランド」とは具体的に何か

町長：津南の総合力向上による産品の有利販売

桑原 悠 議員

見せ方、売り方に課題

問 「津南ブランド」とは言うが、今具体的にどのような動きがあるかという具体性、また所得向上にどう結び付くのかという因果関係、さらに若者はどんな方向に動けばいいのかなどが見えてこない。

津南はたくさんの特産品があるが、見せ方、デザイン、宣伝などいざば演出の分野に課題があるのではないかと。

今年度から情報発信アドバイザーに情報発信のあり方を検討いただいているが、その後も外部人材（デザイナー等）との関わりや若い人の声を入れるなど、見せ方に力を入れていただきたいがどうか。

町長 町の情報発信をどのように見直し、組み立てていけばいいかという根幹を情報発信アドバイザーにお願いし、検討を始めたところだ。

見せ方、売り方の洗練については、外部人材、若い人の声を入れることは大変重要だ。どの分野のどこに課題があるのか、具体的な意見を聞き、必要に応じて人材の登用を検討したい。

問 見せ方、売り方は町長



例えば特産品の餅はどう売るか

の公約である「津南ブランド」に深く関わる。具体的に進んでいることがあるか。

町長 一つ一つの産品が市場で力をもつのは難しい現状がある。「津南」そのものに価値観をもってもらおうという意味で「津南ブランド」の発信と言っている。様々な方策で津南そのもののイメージアップを図っていく。

問 どうやって総合力を高め、町民所得に寄与するか、具体的などころが見えてこないか。

町長 はっきりとした形として目標を定めている訳ではない。概念として持っている。これまで天然水、ジオパーク、秋山郷によってイメージを高める取り組みをしてきた。

総文福祉常任委員会レポート

委員長 草津 進

十日町市中里地区施設視察

日時 8月6日 10時

「定員180名に対し150名入園。職員28名体制。未満児は6ヶ月からで、途中入園が多くなつてきている。朝は7時半から夕方は7時迄延長し、6時半以降一人一日200円の保育料加算している。通園バスはNPO法人に委託し、子育て支援センターも併設している。また、放課後児童クラブは平日午後2時半から夕方6時半まで、夏休みは朝7時半から夕方6時半までである。

現施設は変形に造られており、冬季避難通路確保が大変である。」というところでした。また、市長は公立を廃止し民営化、法人化にする方向だそうです。民営化にすることにより、職員数の適性化が図られ、民



「子育て支援センター」も同じ園内で

間独自の工夫によりサービスや質の向上が期待できるとのことです。また、給食は民間給食センターに委託し、送迎については、未満児はバスに乗せられないので、親が勤め時間にあわせて送迎しているということでした。

中里アリーナ（体育館）

総事業費14億6,790万円。



都会からの合宿で地区の活性化NHKのど自慢も行われました

平成21年「中里体育館建設を考える会」が市に報告書を提出し、建設に至った。管理運営は中里公民館が窓口となり、臨時職員1名とNPOネーージュに委託している。来年は200万円

視察を終えて

「なかよし保育園」では、平成18年に中里地区での6カ所の保育園が1つになり、「子育て支援センター」や「放課後児童クラブ」を同一園内で総括的に行われている。そのため情報共有と伝達がより速く行なわれているようです。また全館冷暖房となつていて「お昼寝」など快適に過ごせていました。

「なかさとアリーナ」では市外、県外の高校や大学の合宿として地元の旅館と提携して活用されており活性化に寄与しています。また災害時の避難所としての機能をもたせていることにも関心いたしました。

今回の視察で津南町としても取り入れるべき課題は多く今後、前向きに検討していきたいと感じました。

(担当 風巻光明)

(担当 根津勝幸)

産業建設常任委員会レポート

委員長 大平 謙一

県への要望活動

とき 8月6日(水)

ところ 県十日町地域振興局

内容 各地域から出された土木要望をまとめ、県土木部宛に要望書を提出しました。要望事項は次の八項目です。

- ・国道117号灰雨バイパス早期着工
- ・国道405号整備促進
- ・主要地方道小千谷十日町津南線整備促進
- ・一般県道加用今井新田津南停車場線の整備促進
- ・一般県道中深見越後田沢停車場道の整備促進
- ・一級河川釜堀川の河川整備促進
- ・一級河川信濃川の堤防整備促進
- ・急傾斜地崩壊対策の促進

委員会としては、事業の進捗状況を注視しながら、引き続き要望活動をしていきます。

(担当 大平謙一)

県外視察

●アンテナショップ視察

とき 8月21日(木)

ところ 東京都 表参道新潟館ネスパス

内容 新潟の特産品や観光情報を紹介する目で設置された東京のアンテナショップを見学しました。

学しました。
ネスパス館長によると、一日10万人が通行する好立地にあり、一日で100万円を売り上げるほど賑わっています。
1階は無料のイベントスペースと特産品の販売、2階は新潟の観光案内やUターン希望者の就職相談などに利用されています。

視察を終えて

立地の良さが功を奏して、都内37店のアンテナショップ中第3位の業績と聞き、頼もしい限りです。今後、津南町の情報発信に大いに役立てたいです。

(担当 滝澤茂光)



新潟館ネスパスの前で

●大田花き市場視察

とき 8月22日(金)

ところ 東京都 大田花き市場

内容 県外視察2日目の朝、津南ブランドのユリ「雪美人」の競りを見学しました。JA津南町の桑原花き担当の仲介で、大田市場営業本部藤田アドバイザーから市場内を案内

ていただきました。競りはパソコン操作により、大量の商品が短時間のうちに落札されます。市場関係者の間では、津南産切り花は高い評価を受けており、これは生産組織がきびしい品質チェックをしているからだとのことでした。



パソコンがずらりと並ぶ競り市場

●揚水式水力発電所視察

とき 8月22日(金)

ところ 群馬県上野村 神流川発電所

内容 上野村では、東電の世界最大級の揚水式発電所を見学しました。長野県と群馬県の2県2水系にダムを設置し、653メートルの落差と夜間電力を活用しての揚水の発想に感嘆しました。

視察を終えて

自然エネルギーの偉大さを改めて認識し、原発に頼らないエネルギーのさらなる開発を望みます。

(担当 津端眞一)

作況調査

とき 9月4日(木)

ところ 町内各所

内容 今年も、稲作と畑作の作況調査を行いました。稲作では、JA津南町桑原主任に案内していただき、外丸地区の基盤整備後の田、正面原をはじめ、午肥原の鉄コーティング種子での直播田、反里の多収性品種「新潟次郎」の生育状況などを見学しました。今期は多雨と日照不足から収穫期がやや遅れとみられました。

畑作では、JA津南町滝沢係長の案内で加工トマトの収穫現場、アスパラ圃場、馬鈴しよ圃場などを調査しました。今年には熊の被害が増えており、電気柵の有無で被害の格差が生じている現状でした。

調査を終えて

例年コシヒカリのみの調査ですが、今年には新品種の作付田も調査しました。新品種の今後の進展が期待されます。野菜を雪室に入れ、出荷時期を変更するなどの工夫も今後重要と考えました。また、町外から農業への参画が増えており、津南の土地を長く、大事に使ってもらえるように願うものです。

(担当 吉野徹)

町村議会議員研修

とき 8月29日(金)

ところ 新潟県自治会館

内容 毎年夏に行われている町村議会議員研修に今年も参加しました。

1. 講演

「これから求められる町村議会の役割」
大山礼子氏(駒沢大学法学部教授)
要旨 「議会は住民から信頼されているのか。定数削減、手当て引き下げばかりが改革の論点になることはとんでもない話である。議会の役割は、少子高齢化による人口減少社会に対応するため、多様な民意が反映される政策立案が求められている。住民からのアイデアと協働が大事だ。」

2. パネルディスカッション

「議会はどう議論すべきか」 人口と農業を考える」
田口一博氏(県立大学国際地域学部准教授)
新潟をよくし隊

新潟県立大学3年の学生3人
パネリスト 田上町議会議員 小池真一郎氏
刈羽村議会議員 横田信子氏

人口減少と農業問題について学生とパネラーの議員が町村の抱える課題を、若い学生は若者の視点での分析を発表しました。
農業は地味、華やかさがないというイメージがあり、田口准教授は若年層が地元にもどってきたくなるような施策、若い人がいられる町づくりが重要だと話していました。

研修を終えて

私たちが常日頃、開かれた議会にしなければと言っている今、本当に住民から信頼され、住民と共に政策立案がなされているか、もう一度原点に戻り、議員一人一人が自身の活動を見直す必要があると感じました。今回の研修会は大変充実した内容でした。今後の議員活動に役立てていきたいと思えます。

(担当 栗原洋子)



各町村の議員が出席した研修会

激論

条例改正で

削減の

議員定数

議員定数削減の

発議案

【提出者】 恩田 稔
 【賛成者】 伊林 康男
 津 端 眞一
 吉 野 徹
 中 山 弘
 風 巻 光明

発議

議員定数特別委員会で1年間議論及び調査してきたが、あえて一本化をしなかったことは案内の通りである。しかし、昨年の6月議会において次期改選の一年前までに結論を出すとの申し合わせがあり、今議会に2名削減を提案する。特別委員会では、県内の市町村は基より、近県市町村の状況、さらに全国の1万人台の市町村の定数や人口、面積なども調査し検討した。県内10町村の2000年以降を調べると、阿賀町は42の削減、これは合併したために特に多いと思われる。粟島浦村は定数が8名ということもあり、削減はしていないが、他の8町村の削減数は聖籠町、出雲崎町、湯沢町が8名削減、弥彦村、田上町、刈羽村、関川村が6名削減、そして津南町が4名と最も削減が少ない町となっている。また、全国1万人規模

議員定数削減の

発議案に対する

討論

【反対】 栗原 洋子

議員定数は減らすべきではないという立場で発言する。

県町村議員研修で講師は「議会は住民代表機関として住民から信頼されているのか。また定数削減、手当引き下げばかりが改革の中心にされるが、少子高齢化社会に対応するため、多様な民意が反映される政策立案が求められている。改革すべきことは、行政が軽視している問題の発掘や、住民からのアイデアの活用、住民との協働が大事だ」と言われた。

安心して暮らせる町にするには、新農政改革や津南病院の役割も十分話し合っていかなければならない。

議員は、行政が常に能率的に、公正に行われているか、住民の意志に反することをしていないかをチェックすることも重要な任務であり、そのための権限も与えられている。

議会には若い世代の代表も、女性の代表も、もっと必要である。議員定数削減は、色々な分野からの住民代表がなくなるということを指摘し、議会改革の議論が尽くされていないなかでの、議員定数削減の発議案に対して、反対の討論とする。



国会議事堂の前で（津南町議員団）

賛成

草津 進

人口減社会、少子高齢化が急速に進んでいる中、津南町の先行きは不透明であり、議員の果たす役割は重要である。津南町は、平成の合併はしない自立の道を歩んでいる。自律推進計画では、議員は10人で良いとの記述がある。あまりにも極端であり、議員としての在り方が問われる。私は、5期議員としての任のなかで、3回目の定数議論となった。今回は特別委員会を設置しての取り組みであり、委員それぞれが白紙の状態でも臨み、議論されたと思うところである。結論が出せなく、方向性を示せないと言ふことは、現状で良いと言ふことでもある。しかし私自身、一部ではあったがアンケートで町民の意見を聞いた。結果は全議員に共有したところであり、削減の方向であった。このことを重く受け止め、悩み、苦しみ、考え、判断した。特別委員会の報告後もしっかり議論を重ね、12月議会での発議でもと心に秘めるものがあつた。ある講演の中で、「ライバルとは、急速に進んでいる時代の流れに勝つことである。常に流れの先々を見据えていくことである」という話があつた。5年10年先の津南町を見た時、若者に夢と希望を与えることが、私達の義務と思ひ、早い段階での判断で2人削減に賛成する。

反対

藤ノ木 浩子

この度議員定数特別委員会が設けられ、町民アンケートをお願いしたところ、定数削減と現状の16人でよいという意見は拮抗していた。町民の議員定数を減らせという主な理由は「税金の無駄使いをなくせ。仕事をしない議員はいらない。だから減らせ」といつているのだと思う。これは深刻である。削減だけで町民の信頼は得られない。議員の第一の仕事は、この議会で大いに発言し、行政の監視・チェック機能を發揮することであり、住民の代弁者として、住民要求をぶつけるのが大事な仕事である。アンケートの中に「議員はもっと集落を廻って住民の声を聞いてほしい」と訴えていると感じた。定数を減らしたら、その住民の声は届きにくくなる。市町村合併とその影響で、多くの自治体の議員定数は削減している。私はいくつかの議会と懇談したなかで「定数を減らしすぎて大変だ」という議員の声をこんなに聞いたことはなかった。活発な議会が求められている今、取り組まねばならない課題もいっぱいある。定数削減はやめるべきだ。



国会議員に要望書を提出する河田議長

賛成

伊林 康男

議員定数削減について賛成の立場から討論する。

私は議会経費削減が目的ではなく、津南町にとって議員定数の適正という視点から定数2名削減に賛成するものである。適正な議員定数を算出することは、極めて困難なことであるものの、法定数は別として人口や産業構造、地域性、予算規模、財政状況などの当該自治体の規模や特性によって検討されるべきものと思われる。

委員会運営上少人数では住民ニーズの把握や、広範な意見が出ないのではという危惧もあるがそれは委員会の開催回数を増やしたり、或いは委員会への重複所属をすることにより解消できるのではないかとと思う。このことが議員にとって、見聞を広める機会が多くなり知見をより高めることになるのではないかと考える。

議会として、行政監視機能を重視する場合は定数を多めに、報酬を少なめにとり説がある。また、政策立案機能を重視する場合は定数を少なめに、報酬を多めにすることも考えられる。政策立案機能を重視する場合に少数議員が望ましい理由は、選挙での一人当たりの必要獲得票数が増加して、議員が全体の利益を志向することになり、また定数が減少する分、一人当たりの報酬を増やして専門の、或いは若い議員が誕生しやすくなる。また議員が少数ならば、統一した合意形成が行いやすいのではと思われる。

議員定数削減により、住民の痛みや、職員の実績を取り組むを慮って自らも痛みを感じ、切

激論

条例改正で

削減の

議員定数

磋琢磨して住民の広範多岐にわたる付託に応えていかなければならないことを念頭に賛成討論とする。

反対

石田 タマエ

以下の2つの理由で反対する。

一つ目は、三位一体改革により、各行政当局、各議会においても多様な政策課題に対し責任が波及される。また、議会に求められる役割は、行政の監視機能と多様な民意を反映できる政策立案が求められる。これら議会の使命を果たすために、より多くの住民の意見を、また、声なき声をいかに汲み取ることができ、それが議員一人一人に求められている。特に当町は小集落が点在している地域環境にあり、議員が選挙以外では顔を見せないと言われていた地域も少なくない。よって、議員は多いほうが良い。

2つ目は、「議会の活動が見えない。こんな議会なら議員は大勢いらぬ」と等といった議会批判の意見が削減すべしに繋がっている。これらの議会批判にどのように応えていくかを議会でも何論論されていない。また、削減によるデメリットに対して何も議論されていない。長い歴史を重ねた津南町議会を、今我々議員は住民からお預かりしているという立場であることを考えると、何も議論をせずしての今発議は傲慢すぎる。

内でも同一規模の市町村と比較しても一番多い。この様ななか、全国的にも削減の傾向にあり、世の中の動き、町民の声に対し敏感に反応していくことこそ議会の役割である。

② 議論の中で、定数を減らした場合のメリット、デメリットを明確にして判断すべきとの意見も出たが、そもそもこの定数問題はメリットとデメリットを、天秤にかけて決定するような次元の問題ではない。「この人数でやる」「やるべきだ」という考え方で取り組まなくてはいけない。「定数を減らしたなかで住民のために議員もがんばれ」という、町民のかたの叱咤激励の言葉と受け止め、議員一丸となつて今以上に努力して行こうではないか。

③ 津南町は面積が広いのでそれなりに議員数も必要だとの意見もあった。一概に面積比較で議員数を判断できるものではない。道路も、除雪体制も良くなり、集落の何処へでも車で短時間で行けるため、議員の機動力は十分発揮できると考える。以上の理由で本案に賛成とする。

反対

村山 道明

反対の立場から申しあげる。町民アンケートの一部に、「この時期

安易にこのまま削減しても議会の力は後退するだけ。議会改革の方向を見極めてから削減を検討するべきだ。

賛成

桑原 悠

定数削減に賛成する。理由は、私のような新人以外は皆ベテランであるので、16人から14人になったとて、山積する課題を解決するのはそう難しくないだろう。思い切った削減も考えられたが、減らしすぎると組織も資金も持たない若者が出てくると懸念、議員の組み合わせのバリエーションが限られ、多様な意見の代弁が難しくなると懸念があり、2人削減が妥当と考えた。

また、津南町議会は「開かれた議会」というテーマで活動してきたが、道半ばと考える。知識はたくさん持っているが、自分と異なる意見に寛容かという点、その面では弱い。残り任期一年で、「開かれた議会」を波及していく必要がある。

反対

大平 謙一

定数問題を一年間に渡り検討した。しかしどうしても削減しなければならぬ理由は見つからない。

住民からは、むしろ議員が住民の意見や地域の実情を聞いてくれることが大事だとの話が多かった。議員は身近なことや自分の支持者の意見を大事にする傾向がある。定数削減に賛成の議

になぜ議員定数が問題になるのか理解できない。議会が町民のためになるならば、町民のために取組んで欲しい。「人員を減らすことよりは議員として、何をすべきか見失っている。」この言葉、思いこそ、町民が今本音で言っていること、私は受け止める。

議会本来の機能は、地方行政ではなくまさに、地方自治の実現、充実にある。いま町民代表である私たちが、自らの定数を減らして本当に良いのか。

町民の声を1人でも多く、幅広く聞くためには、日々の行動が大切である。議員の数をどんどん減らしていけば、それだけ町民の意向が町政に反映されない。これは当然であり、地方自治がそれだけ希薄になることを意味する。

いま大事なことは、定数削減などではなく、町民の意向をいかに反映すべきかというような「議会改革」「町民のための自治」を真剣に考えるべきだ。

賛成

中山 弘

5年前から定数削減を提案してきた。町民の声を議会に取り上げていないとは思われなく、町民の声を聞くのが足りないのであれば津南町役場職員数を増やした方が良く考える。また、町民アンケートによれば議員数よりは議員の資質を問われ、自己反省をしているところである。定数に基準がないのであれば人口1,000人に議員一人を基準にし、12人を切らない議員数が妥当と思うので定数削減に賛成である。

員はもっと少人数で良いとの理由も自分の支持者の一部の人の意見に左右されているのではないかと危惧する。住民の意見を町政に反映するには現在の16名より削減の必要はないものと考え反対の討論とする。議員各位の賛同をお願いします。



16人で全員協議会

賛成

風巻 光明

① 議員定数は現在自らの責任で決めることになつていく。住民の「代表性」という観点から定数が決まっていることから、当然住民の声を反映することが必要だ。人口が減っているから議員も減らすべきという声も多く、県

反対

根津 勝幸

町議員定数を定めるに決まりはない。我が津南町は面積170平方キロメートル。そのうち70パーセントが森林と言われているが、津南町は平野ではなく、地形的に郷である。今現在選出されている郷での議員は外丸郷一人、秋山郷一人、上郷一人、(広範囲では3人)。今の時代、議員は地域だけの代表でないことは勿論であるが、その地域にはその地域の事情があったり、特性があったりして分らないこともあり、削減されることにより各地域のことが行政に繁栄されにくくなるのではないかと思ひ、原案に反対する。



消防演習に参列する議員団

本発議案は9対6の賛成多数で可決しました。



町民登場

新婚さん♡
いらっしやい

桑原 ^{ひろ たか} 洋貴さん ^{み く} 未来さん(豊郷)

今回は津南にUターンし五泉市からお嫁さん
をもらい酪農に励む新婚さんを訪れました。



Q.Uターンしたきっかけは

学校を卒業後、自衛隊に入り、高田駐屯地に
4年間勤務しました。東北大震災で福島へ人命
救助にもいってきました。

父が酪農をやっていたので、興味もあったし
家業を継がなくてはと思い、昨年津南へ戻ること
に決めました。

Q.奥さんと知り合ったきっかけは

自衛隊の時、同僚から紹介してもらい、初め
は会わないでメールでやり取りしていました。
ある日、新潟発の高速バスで上越まで会いにく
るというので、初めて会ったのはバスの停留所
でした。その時「この人しかいない」と一目ぼ
れしました。

Q.乳牛の仕事だそうですが、何頭くらいいますか

全部で24頭のうち19頭から牛乳をとって
います。昔は手で絞っていましたが、今はミル
カーという機械を使っています。父と二人で朝
と晩2時間ずつ絞っています。

Q.奥さんは旦那さんの印象はどうでしたか

髪が短くて怖そうな感じでしたが、「男まえ」
だと思いました。そのあと食事にいき良い人
だと感じました。1年後両親に「津南に嫁ぐ」
と打ち明けた時、父はとても寂しそうでした。
今は雪の津南にもなれ、お米もおいしく、チョコ
ピリ太ったかな。そして家族どうしの付き合い
もできて、とても幸せです。

Q.仕事は大変ですか

家族一緒に仕事ができるので楽しいですが、
最近、円安・増税でエサ代や燃料費が高くなっ
て経営は厳しいです。

家族全員で一緒に働き、赤ちゃんもできて、幸せな一家でした。津南原地区は若いお嫁さんが多い
ようですが、近くに保育園と学校がなくなって、とても残念そうでした。



「新しい朝がきた」の歌声で会場は熱気ムンムン(津南中学校にて)

秋もだいぶ深まり、農作業もひと段
落しホットしているのではないかと思ひ
ます。そして柿や栗など実りの時期と
なつて食欲の秋でもありますね。
今回の9月定例議会では、米価の下
落を受け、一般質問では「今後の農業
の方向性」について多くの議員から質
問がありました。
また早いもので町議会議員の改選が
1年後にせまりました。今回定数減の
議員発議があり、多くの議員が討論を
行った結果、2名減が可決されました。
今後、更に身を引き締め頑張る決意で
あります
NHKのラジオ体操の実況放送が津
南町で行われ、早朝から9百人の人が
参加しました。県内で開かれるのは何
十年ぶりだそうです。これから雪の季
節を迎えますが、体操をして毎日元氣
に過ごしたいものです。(風)

編集後記